



“GARDEN”



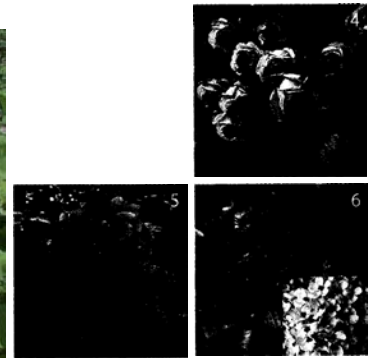
幼稚園の野菜作り

ミニトマトから始める幼稚園の野菜作り

園長 高杉 洋史



1. ジャガイモの様子
2. キュウリの様子
3. ミニトマトの花
4. ナスの様子
5. オクラの様子
6. サトイモの芽



幼稚園の近くの温室で、お花のポット苗を栽培されている山路さんご夫妻と仲良くなら、幼稚園に隣接する畑を貸していただきました。広さは約400坪。ずつと子どもたちと野菜作りができたから教育効果は高いだろうなと考えていたところです。一坪や二坪の小さな畑やプランターでの野菜の栽培は経験したことがあるのですが、本格的な農業は初めてです。鋤を片手に鋤をつくっていると、見るに見かねた山路さんが大型機械でたい肥の攪拌から畝作りまでしてくださいました。プロはすごい。ジャガイモの種イモの植え付けから、サツマイモの苗植えまで、おんぶにだっこで何から何までやっていたいただきました。農業って健康的ではないなあとしみじみ思ったものです。サツマイモの苗を植えて2・3日天気を気にかけていたのですが、ちっとも雨が降りません。ホースを引張って水をかける必要があります。500本の苗に水をかけるのに1時間30分かかりました。それでも土の表面から2センチも濡れていません。農業って時間がかかるのです。

その他、ジャガイモやトマトの脇芽を摘むこと、ジャガイモに土を寄せること、サツマイモ畑の草取りのこと、排水のこと、次々に教えていただきました。その時その時、適時適量な作業が必要なのです。

後でやろうと思っていたら、草は伸びて作業量が2・3倍になります。肥料もやりすぎると苗が枯れてしまいます。ほつたらかしもダメ、過保護もダメ、いつも目をかけて、必要なことだけしてあげる。なんだか子育てとそっくりです。手をかけただけ、答えてくれる反応が早いのはうれしいです。それだけに大きくならかけたスイカがカラスにつつかれた姿を発見したときは、残念とか悔しいよりも、早くネットをかけてやればよかったなという気持ちになりました。

玄海ゆりの樹幼稚園の子どもたちは科学に興味を持つ子どもにも育ってほしいと思っています。最近草の中に小さなバッタがたくさん生まれています。子どもたちが上手に捕まえる姿を見るにつけ、ここで幼稚園をすることができると感じます。生まれたばかりの小さなバッタなので、つよく捕まえる

とつぶれるし、優しく持ちすぎると逃げてしまいます。その加減がわかることは素晴らしいことです。世の中にもちやへはたくさんあります。が、このような程々な力のかけ具合や、指のコントロールを教えてくれるものはないでしょう。幼稚園教育要領が目指している環境を通しての教育とはこんなことを想定しているのでしょうか。

保護者の方々や、地域の方々のおかげで、カエルアンコウという珍しい魚を飼うこともできますし、先日はペットボトル入りの生きたマムシを見せていただきました。この模様の蛇を見たら逃げようねと話したところ

音楽祭を目指して可愛い歌声に満ちた毎日です。和太鼓の音も力強くなってきました。子どもたちの成長をお互いに喜びましょう。そしていっばい子育てを楽しみましょう。

お奨め絵本
たねをそだててみよう
福音館書店
幼稚園の玄関にアサガオやユウガオの芽生えとともに飾っています。ご遠慮なく手に取ってください。